

東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第21回）会議録

1 開催日時

平成24年5月15日（火）午前11時00分から

2 開催場所

会議棟第1会議室

3 出席者

委員：青野かほる 荒川進 小川雅義 鈴木一徳 高嶋清和 渡辺理万
菊地明 菊地フミ子
事務局：阿部学校教育部長 田代学校教育課長 加藤特別支援教育係長
藤本学務係長

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者数

0人

6 議題

- (1) 視察のまとめ
- (2) 特別支援学級の設置について

7 会議資料

- (1) 会議次第
- (2) 特別支援教室モデル事業の実施に関する検討委員会報告

8 会議の要旨

【質疑等】

委員長： 各委員より、今日の視察（第六小学校の通級学級の視察）の感想等をお願いしたい。

委員： 第六小学校の通級利用者は50人と多く驚いた。今日の利用者は少なかったが、手一杯だと思う。現状では、1人あたり週1日利用で5時間利用とのことであったが、通級利用時間の上限である週8時間利用（週2日利用）を確保したい。

委員： 利用人数が増加すれば先生の人数も確保しなければならず、その点が大変だと思った。

- 委員： 施設面に関して、1つの教室を2つに分けて学習室としているが、非常に狭く、他の児童と距離を置いて指導をしなければならない時には支障になると思う。それから、通級で体育館や校庭、特別教室等を使用したい時に、普通学級の利用状況から思うように利用できないとのことであり、大変だと感じた。
- 委員： 普通学級の児童と通級の児童との関わりが非常に難しいと感じた。あまり人数的なことだけを問題にしなくても良いのではないかと感じた。
- 委員： 現在の通級利用者は低学年で少なく、高学年で多くなっている。低学年は保護者の送迎が必要なので、利用者が少ないという面があるのではないかと。そこで、低学年向けに情緒障害の固定学級を設置して対応するという方法もあると思う。
- 委員： 通級以外でも、特別な支援を必要とする児童の実態把握が必要であると感じた。
- 委員長： 今日の視察を通じて、六小の通級は利用者が増え過ぎており、新たに通級を設置する必要があるという点は確認できたと思う。それから、通級と普通学級との連携が大事であると感じた。通級の利用児童が普通学級でうまく生活していれば良いが、うまくいっていないのであれば、普通学級の先生に通級の指導方法について勉強してもらいなどの対応が必要ではないか。ただ通級を増やすだけではなく、特別支援教育のあり方について、もっと現場で理解を深めて欲しいと思う。
- 事務局： 特別支援教育に対する普通学級の先生たちの理解に関しては、今後先生向けの研修を体系的に実施していく計画である。通級の先生だけが特別支援教育をすれば良いわけではなく、全ての学校で特別な支援を必要としている児童がいるとの前提で対応したいと考えている。
- 委員長： 通級設置の必要性は共通認識となっていると思うが、事務局が想定している今後のスケジュールは、どのようなものか。
- 事務局： 新たな事業を実施する場合、市の計画に計上する必要があるが、事業実施の前年度には計画に計上しなければならない。このことから考慮すると、今年度に計画計上して来年度に予算措置、再来年度からの設置というのが最短となる。現状では、どこの小学校に通級を設置するか、また中学校への特別支援学級の設置はどうか等、詳細は決まってはいるが、計画計上に向けて事務を進めていきたいと考えている。
- 委員長： 小学校への通級の設置については、これまでの話し合いの結果や今日の視察を実施して、ある程度共通認識となっているが、中学校については状況を把握できていない。今後の見通しについて、事務局から説明をお願いしたい。

事務局： 中学校について、一中の固定学級が4学級となっているが、教室数に余裕がなく、更なる学級増に対応することは困難である。また、今後については、情緒障害の固定学級の設置も視野に入れて、検討する必要もあると考えている。このように、現状ではどのような特別支援学級を設置したら良いのか、判断することが困難な状況である。よって、この委員会で方向性を出してもらいたい。

委員長： 中学校に、固定学級と通級を一つずつ新たに設置するという考え方はあるのか。

事務局： 現状では、小学校には通級を1校、中学校には知的の固定学級、情緒の固定学級、通級のうちいずれかを1校、それぞれ平成26年度から設置したいと考えている。このためには、今年度の10月ぐらいまでには、具体的にどこの学校にどのような特別支援学級を設置するかを決定する必要があり、それに向けてこの委員会において検討をしてもらいたい。

委員： そうなると、中学校の特別支援学級を早急に視察する必要があると思う。特に、二中の通級では、実際に利用できている人がどのくらいいるかといった実態を把握することで、新たに設置するのは固定学級の方が良いという考え方になるかもしれない

委員長： 固定学級の新設も視野に入っているならば、一中の固定学級も視察する必要があると思う。

委員長： 今後のスケジュールを考えると、次回会議においては、中学校の特別支援学級を視察するとともに、小学校の通級をどこの学校に設置すべきか、結論を出す必要があると思う。その後、中学校への特別支援学級の設置について、検討したい。

委員： 現在の二中の通級利用者は何人か。

事務局： 32人である。

委員： 小学校の利用者と比べて少なくなっているのが、中学校入学段階では、ある程度解消されていると考えて良いのか。

事務局： 中学生になると、本人の意思が強く働くようになるため、通級適の判定が出ても、利用しない生徒が多くなる。このため、小学校に比べると、中学校では利用者数が減る傾向にある。

委員： そのような状況では、固定学級だと更に利用者が減るのではないか。よって、どのような特別支援学級を設置するかについては、このような実際の状況をよく確認した上で、判断する必要があると思う。

委員長： 現在の一中の固定学級利用者は何人か。

事務局： 28人である。固定学級についても、中学校では小学校と比べて利用者が減る傾向にあるが、判定が出ても固定学級を利用しない生徒がいる。よって、中学校入学により、特別な支援を必要としている生徒

が減っているわけではない。

委員： 保護者の気持ちとして、普通学級で卒業させたいという思いもあって、固定学級を利用しない生徒も多いのではないかな。

事務局： 知的障害の固定学級に対する抵抗感は、保護者の方に根強いものがあると思う。一方、情緒障害の固定学級については、知的障害の固定学級ほど抵抗感はないのではないかなと思う。

委員： このような課題について話し合う特別支援教育のあり方に関する委員会などはないのかな。

事務局： 小中学校の校長会長や特別支援学級の担任の先生などが参加する検討委員会があり、課題について話し合いはしているが、体系的な話が中心であり、今のようなことに関して話し合いはしていない。

委員長： 小学校への通級の設置に関しては次回会議において決定する予定であるが、どこの学校に設置すべきか、現段階における各委員の意見をお願いしたい。

委員： 今日の六小の視察において、通級で体育館や校庭、特別教室等を使用したい時に、普通学級の利用状況から思うように利用できないとのことであった。よって、新たに通級を設置する場合には、設備的に余裕のある学校が良いと思う。それから、六小の校外学習が年2回とのことであったが、少な過ぎると思うので、人的確保をした上で回数を増やした方が良いと思う。

委員： 東京都の計画によれば、将来拠点校を作る必要があるので、そのことを考慮して設置校を決める必要があると思う。

委員： 施設的に考えると、九小が候補になると思う。

事務局： 九小には、知的障害の固定学級が設置されていることもあり、将来推計では教室数が不足する見込みである。将来推計において教室数に余裕が見込まれるのは、一小、四小、五小、七小であるが、七小を除いて余裕数は少ないのが現状である。

事務局： 前回会議において、通級の設置校として提案したのは、四小、五小、七小の3校である。

委員： 六小通級の利用児童が減るよう、新たな設置校を決める必要があると思う。四小に設置すれば、六小の利用児童はある程度減るのではないかな。

事務局： 六小通級利用児童のうち、一小は8人、四小は7人であるので、この程度の人数は減少する見込みである。

委員長： 新青梅街道から北側の児童は、全て四小に通うという考え方もあると思う。

委員： 拠点校を設置すると考えれば、四小に加えて、中学校の通学区域を基準として七小・九小エリアにも設置すれば、配置として良くなると

思う。

委員長： 今回は四小に設置して、今後の状況により、七小・九小エリアにももう1校設置するという二段構えで臨むのはどうか。通学の利便性等を考慮すると、今回は四小に設置するのが望ましいと思う。

委員長： 次回会議において、四小の教室の利用状況や設置した場合の教室配置などの資料を出してもらい、最終的な決定をしたい。

委員： 四小は体育館が狭かったり、図書館の場所が他の学校と違っていたりして、使い勝手が悪いと思うので、そのあたりを考慮した方が良いと思う。また、通級や固定学級ではなく、専門性の高い職員を在籍校に配置して、在籍校の中でサポートした方が良いと感じている。

委員： そのような方法が理想的だとは思いますが、実際には財政的な問題もあり困難だと思う。

委員： 東京都の計画によれば、特別支援教室構想において、専門性の高い職員を各校に派遣するとあるが、「専門性が高い」とはどの程度の専門性を指しているのか。

事務局： 研修などを通じて専門性を高めるのではないかと思う。東京都では、そのようなことも含めて、本格実施の前に検証するのではないか。

委員長： 子ども達のことを考えると、いろいろとやりたいことはあるが、現段階においては、小学校に新たに通級を1校設置する必要があるということと、適正配置を考えると四小に設置するのが最も望ましいということを確認して、次回会議において正式に決定することとしたい。

委員長： 今日、議題とはならなかったが、前回会議においては、五小も通級設置校の候補となっていた。しかし、適正配置という視点で考えると五小は六小のすぐ近くであり、よって四小に設置するのが最も望ましいと思う。

委員： 現在の五小の通級利用児童数は22人と非常に多い。今後、東京都の計画が進んだ場合、職員を派遣することとなるが、五小のように人数の多い学校には、どのように派遣するのか。このように、東京都の計画には、まだまだ検証すべき課題が数多くあると思う。

委員長： 潜在的には、他校においても、現在の通級利用者以上に特別な支援を必要としている児童はいると思う。このような見通しは非常に難しい。

委員長： 様々な意見はあるが、小学校への通級の 신설について、適正配置を考えると四小に設置するのが最も望ましいと思う。

事務局： 将来的な理想を掲げて、布石を打つことが大切だと思う。今日の会議でも議題となったが、中学校の通学区域に1つの通級設置小学校があると、児童の通学や保護者の送迎の面で望ましいとは思う。

委員長： 次回会議において、四小に通級を設置する場合の資料（教室等の施

設に関する資料) を事務局に用意してもらい、最終的な決定をしたい。どの選択肢を採用しても課題はあるが、その中でもより良い選択をしていきたい。ただ、長期的には中学校の通学区域に1つの通級設置小学校があることが望ましいと思うので、そのことから考えると、四小に設置するのが良いのではないかと思う。